

市民大学「手賀沼大学」・手賀沼再生から創生へのプロジェクト ～川瀬巴水を魅了した手賀沼を今こそ再生し、次世代へつなぐために～

「手賀沼再生」の意義

- ・都心に最短の天然湖沼である手賀沼は、かつて多くの文人らを魅了し、親しまれて来ました
- ・しかし、高度経済成長期に著しい水質汚染により、その姿は一変しました
- ・その後現代にいたる水質浄化の取り組みにより、今、再び美しい姿を取り戻しつつあります
- ・手賀沼の文化的・社会経済的な価値を再認識し、手賀沼の恵みをより一層活用しながら、次世代へと引き継いでいくことが大切です

手賀沼
||
都心に最短の天然湖沼

手賀沼に魅了された人々

版画家：川瀬巴水
白樺派：武者小路実篤、
島崎藤村、
田山花袋、
志賀直哉
民俗学者：柳田國男
日本民藝運動：柳宗悦
柔道の父：嘉納治五郎

高度経済成長期の

水質汚染



水質浄化



**再び
美しい姿へ**

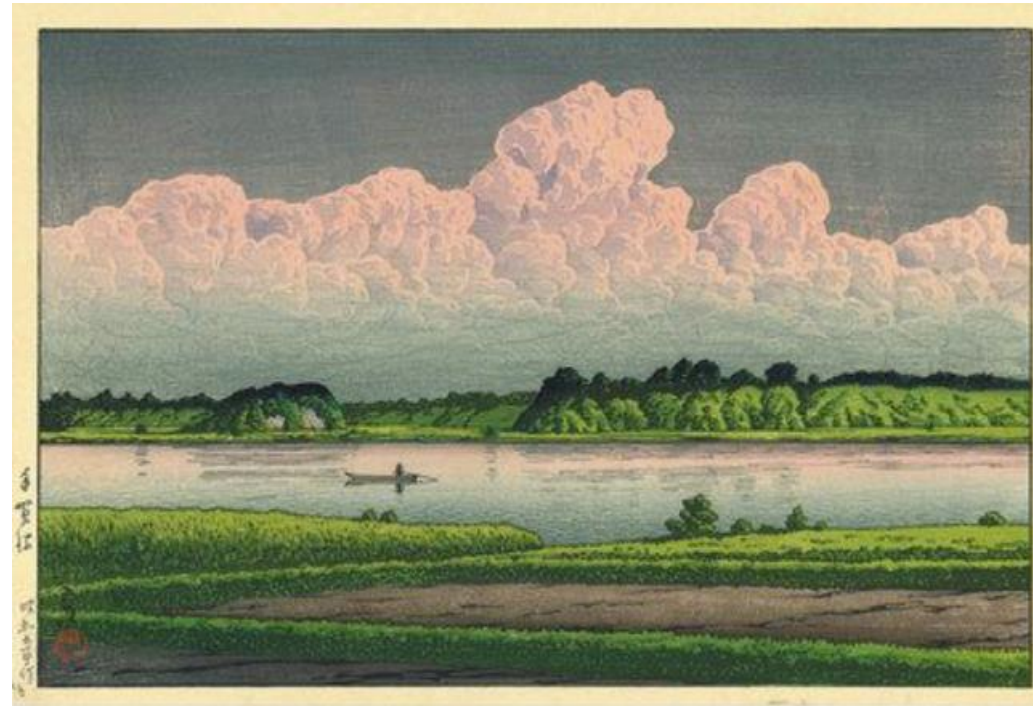
自然の持つ力で 人々を助ける手賀沼

気候変動の影響
→大雨と渇水の頻発
首都直下地震の恐れ
国際紛争による物価高騰
深刻な農業離れ
→食糧の安全保障

首都圏近傍の
**天然湖沼の
恩恵**



**貴重な
グリーン・インフラ**



川瀬巴水(明治16年～昭和32年)「手賀沼」
昭和5年(1930)作 初摺木版画 ギャラリーヌーベル所蔵

「手賀沼再生プロジェクト」の基本方針5本柱

市民大学「手賀沼大学」・手賀沼再生プロジェクトは、以下の基本方針に沿って進めます

5つの基本方針

①「手賀沼の魅力」の 情報発信

- 手賀沼周辺の人口は、周辺を加えると約100万人
柏市(43万人)
我孫子市(13万人)
印西市(11万人)
- JR東京～JR柏駅間はわずか40分
- ビジネス・教育・行政関係や来日外国人など多くの人々が在住
- 文化人が残した作品の足跡もある

↓
手賀沼の**魅力を発信**

②手賀沼に「生涯教育」 の場を創出

- 少子高齢化
→「生涯教育」の時代
→老若男女皆が「生徒」
- だれと出会い、何に気づき、どう生きるか
→学ぶこと本来の喜び
- 文化人らが愛した手賀沼の風景 + ゆったりと時間の流れるのどかな空間

↓
交流の場として最適

- ①外国人による外国語・外国文化教育
 - ②日本人による日本語・日本文化教育
- を支援

↓
手賀沼に人々が集い、
学び合う生涯教育の場
市民大学「手賀沼大学」
を設立・運営

③手賀沼を生かした 産業の育成

- 天然湖沼「手賀沼」を生かした生産
・川魚など豊富な生物のすみか
→**淡水魚の養殖**
- ・農作物も豊富
→農業生産・保存
- ・大消費地が近傍
→生産と消費の安定的な循環
- 観光
・スローライフの再認識
→湖畔水面でくつろぐ
→高齢者、ビジネス層、外国人にとっても魅力
- 手賀沼を生かした様々な産業の育成
→技術面、経営面、人脈形成で支援
→女性活躍、男女共同参画を支援
→周辺在住の外国人の産業参画を支援

④広域を水路でつなぐ 舟運の復活

- 江戸時代の物資輸送の中心は舟運
→かつて大消費地を支えた水路
 - CO₂削減が世界的な課題
→低エネルギーで大量物資輸送
→舟運への回帰
 - 日常時**:
ゆっくりと時間をかけて水路を巡る**観光**
→舟運の魅力を活用
 - 災害時**:
防災船着き場へ**緊急物資の輸送**
→舟運の積極活用
- ↓
平常時の観光と災害時の緊急物資輸送の双方に役立つ舟運の復活
→専門的な見地から調査・研究

⑤行政への**政策提言** (文化・芸術、教育、産業、 国土管理など)

- 産業や国土管理などの行政分野
- ・現状を改変する場合、行政的な判断は必要不可欠
- ・各テーマの専門家
→行政に対し、**専門的な見地**から政策提言

↓

- 実現へ向けて計画が明確になるまでの間、行政では検討しにくい領域を支援
- ①市民に対する**意識調査**
- ②**社会実験**を行うことでデータ蓄積

↓

- アイデアの提示、政策提言の熟度向上

今後の取組方針

「手賀沼再生プロジェクト」について、今後10年間、下記の3段階に沿って推進します

Phase I (ホップ) (2023～2024年)

(1)「手賀沼の魅力」の情報発信

- ・川瀬巴水、白樺派の文人関連のデータ
- ・手賀沼周辺の産業の紹介(写真、動画、ドローン空撮映像)
 - 拠点となるスタジオを設置
 - Web、SNS、YouTube、ケーブルテレビ、ラジオ番組の活用
 - 手賀沼の魅力発信
- ・視聴者の反応を把握・分析
 - イベントの企画
 - 協力者と連携・実施

(2)手賀沼に「生涯教育」の場を創出

- ・市民大学「手賀沼大学」の創設
 - 人々が楽しく気軽に学び合える場を提供
- ・基本コンセプト:物々交換
 - 各参加者は自らが語る講義内容を持ち、それを聴講者に与える
 - 自らは他の講義で学ぶことで対価を得る
- ・手賀沼周辺で長年研究や活動してきた10人の講師がリーダー
 - その10人が、自分が学びたいと思う情報・体験を持つ10人を集める
 - 物々交換の相互講義を開始
 - 順次仲間を増やし、様々な学びができる市民大学を継続
- ・女性やマイノリティの方々、外国人の参画を積極的に後押し
 - ダイバーシティに溢れる環境の育成
- ・常設の校舎など初期投資にコストをかけない
 - 北千葉導水ビジターセンター(国土交通省)
 - 手賀沼親水広場・水の館(我孫子市)等を使用

Phase II (ステップ) (2023～2027年)

(3)手賀沼を生かした産業の育成

- 1)漁業
 - ・「放流うなぎの棲息環境づくりプロジェクト」
 - 手賀沼には、かつてうなぎが多く生息
 - 現在は極めて少ない状況
 - 水質が改善+沼岸には多くのヨシが繁茂
 - うなぎにとって良好な棲息空間
 - ・外来生物(カミツキガメ等)による捕食被害
 - 植生+巨石を投入で放流うなぎの育成空間
 - ・我孫子市・柏市・ウナギ財団・東京大学うなぎ研究室の協力
 - 定期的に放流+棲息状況を確認
 - ・我孫子市のご当地キャラクターは「うな吉くん」
 - 地域活性化にも一役
- 2)観光
 - ・手賀沼をモチーフにした創作活動を支援+観光への活用
 - 現代の画家、版画家、映像作家など若手芸術家が作品を創作
 - 川瀬巴水など大正時代の作品と現代の作品のコラボレーション
 - ストーリー性をもった作品巡りコースを設定
 - 外国人も含め、知的好奇心を満たす観光に
- 3)工芸
 - ・手賀沼の湖畔に、「木版画美術館」を設立
 - ・木版画は木と紙という、日本の自然を生かしたエコロジカルな工芸として注目
 - ・日本及び世界の様々な木版画を収集、展示
 - ・新たな木版画の作家・彫師・摺師の育成も推進

Phase III (ジャンプ) (2023～2033年)

(4)広域を水路でつなぐ舟運の復活

- ・「東京～利根運河～手賀沼舟運プロジェクト」
 - 東京ディズニーランド→東京湾→江戸川→利根運河→利根川→手賀川→手賀沼に至る舟運コース(全長90km。20km/hの船で5時間)
- ・「利根運河(約10km)」を約80年ぶりに復活させる必要あり
- ・利根運河の水深を確保する水量は難しい
 - 閘門を設け(スエズ運河のように)水位操作を繰り返しながら船を進める
- ・利根運河の両岸には桜や紅葉などをあしらえた小江戸風の茶屋など「川の駅」を設置
 - 日本らしいおもてなしの空間を演出
- ・平常時は観光のための舟運
 - 首都直下地震などの災害時には、例え道路が寸断されても手賀沼の農作物などの物資を半日で都内まで運搬
- ・巨大プロジェクト実現には
 - ①幅広い社会認知
 - ②実現を望む大きな民意
 - ③実現した場合に連鎖的に発生するビジネス
 - ④ビジネスに向けた投資家など様々なムーブメントが必要
- ・有識者や著名人による賛同の意志表示も必要
- ・「利根運河復活」の機運を盛り上げる初期の活動が大切
- ・思いを同じくし、共に連携できる仲間を増やす活動を継続